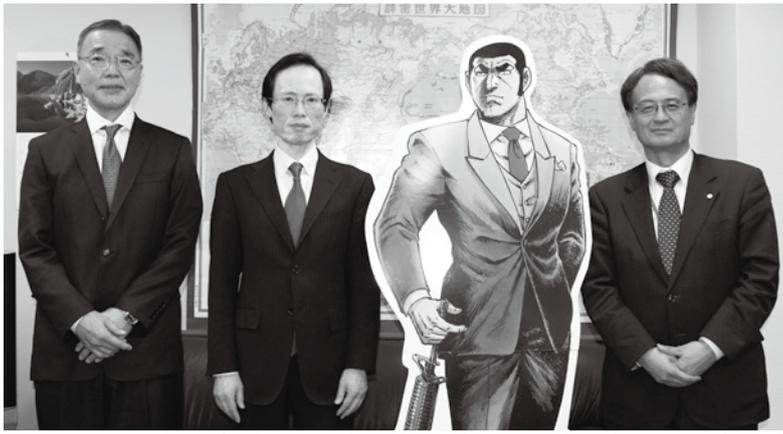


# 安全対策は「臆病」と情報」が重要 「ウサギの行動原理」で万全の備えを

日本人出国者数は今年に入ってから順調な増加が続いています。一方、欧州をはじめ世界各地でテロ事件が頻発し、朝鮮半島でも緊張が高まるなど、国際情勢は厳しさを増しています。7月1日の「旅の安全の日」を前に、リスク管理のエキスパートである皆さんに海外旅行の安全について語り合っていました。



安全マニュアルの指南役=ゴルゴ13を囲む小島副会長、能化領事局長、越智事務局長の3氏（左から）

## 想像をはるかに超える海外旅行の意義

海外旅行をめぐる厳しい環境が続いていますが、こういう時期でも日本人が海外へ出かけることの意味合いをどのようにお考えですか。

**能化** 全くの私見ですが、通信技術の発達により居ながらにして世界各地の情報が得られる時代にも変わっても、生身の人間、特に、人の心はあまり変わっていません。飛行士でもあったフランスの作家・サンテグジュペリは、『星の王子様』に話しかけるキツネに「君がバラのために失った時間が君のバラをこんなにも大切なものにしたんだ」と言わせています。サンテグジュペリは「時間を失う」という言い方をしましたが、町にいても文化にしても、そこで時間を過ごすことによってはじめて、それぞれの人間としての大切さが生まれてくるのではないのでしょうか。時間を使うという意味での海外旅行の意義は、今も昔も変わらな

いと思います。  
**小島** 海外旅行は国際人として社会に貢献できる人材に育つ上で貴重な栄養であり、特に、若い人にとっては、極めて重

## 《出席者》

**能化 正樹**  
外務省領事局長

**小島 俊郎**  
一般社団法人 海外邦人安全協会副会長  
(株式会社共同通信デジタル執行役員  
リスク対策総合研究所長)

**越智 良典**  
JATA 事務局長

要な経験になると思います。能化局長がおっしゃったようにインターネットを通じて、文字や画像だけでなく、動画でも豊富な情報が得られる現代社会ですが、自分の脚で歩いて生の情報や正確な情報を得るために、海外へ出かけることはとても大切です。自分が信じていた情報との乖離や正誤を確かめる行為としても、海外旅行は自身の成長に繋がるものではないのでしょうか。人間社会のあらゆる分野で「情報」に左右される時代ですから、海外旅行の意義は想像をはるかに超える大きいものだと考えています。  
**越智** 渡航自由化から50年以上が経過して、今は、1カ所に長く滞在して生活文化を楽しむ旅をつくるなど、旅行業界も努力と工夫を積み重ねています。

**日本大使館が「安全マニュアル」を作成**  
——朝鮮半島で高まる緊張は、いわゆる

「有事」への対応すら現実味を帯びるものにしつつありますが、こうした国際情勢をどのように捉えるべきでしょうか。

**能化** 世界には、テロや事故、災害、感染症など様々なリスクが存在しており、最近の朝鮮半島における情勢は、安全保障環境をめぐって大きな関心を集める形となっています。特に、韓国は日本から近く、交流の拡大により文化的にも親しみが増しているため、国内にいるような気持で旅行をされていることもあるかもしれません。しかし、当然ながら、韓国も外国であり、日本の主権が及ばないことは、常に念頭に置いていただく必要があります。緊急事態はいつ発生するかわかりません。韓国の日本大使館が作成し、ホームページで公開している安全マニュアルは、その半分が緊急事態への対処に割かれ、心構えや平素の準備、緊急時の行動について基本的なポイントがまとめられています。韓国が外国であり、特別な環境にあることを忘れず、少なくとも旅行会社などではこのマニュアルをきちんと読んでおいていただきたいと思

います。  
——4月11日には、スポット情報の形で、改めて、外務省が注意喚起をされていますが、そのポイントはど

うでしょうか。  
**能化** 2つあります。1つ目は、邦人の安全に直ちに影響がある状況ではないも